

## 沼田東 第2 学童クラブ



1



2



3



4



5

1 市から寄付された政府マスクにデザイン 2 人工芝で駆け回る 3 誕生日会でプレゼント贈呈 4 入り口の前で迎える保護者 5 学童に来たら検温して体調管理

## 沼田東 学童クラブ



1



2



3



4



5

1 勉強をサポートする支援員 2 テントの家を作る 3 学童の庭で採れたサツマイモをおやつに 4 音楽教室でリズム遊び 5 学校の流れに基づいたオリジナルの時間割



コロナ禍に対応した  
音楽遊びを楽しもう

じゅんこ  
**石井淳子さん**  
(沼田東学童クラブ支援員)

歌を歌えない状況なので、主にリズムの勉強をしました。4分音符や8分音符などの長さを、楽器で鳴らしたり手拍子したりして覚えました。次第に1、2年生も理解できるようになり、チーム対抗のゲームで楽しむようになりました。学校再開後の音楽の授業では、周囲に「何で知っているの」と聞かれ、「勉強を先取りできて嬉しかった」と笑顔で話す子どももいました。

曲を当てるイントロクイズやハンドベルにも全員が参加。ハンドベルは学校の先生を招待して小さな発表会を開き、聞いてもらえることを喜んでいました。勉強だけでなく遊びを通して音楽を学べるスタイルがよかったと思います。

染者や大きく体調を崩す子どもも出なかったので安心しました。

**コロナ禍を通して学んだことを、今後どのように生かしたいですか**

**大河原** 保護者の皆さんには感謝の言葉をたくさん掛けてもらいました。感染させないと毎日必死になる反面、疲れて悩んでしまうときこそ、皆さんの言葉を思い出して頑張ろうと思えました。保護者の協力があるからこそ感染者を出さずにやれているわけですが、ここまで思われていることを嬉しく思います。

**伊藤** 私もです。保護者をはじめ、市や地域、励ましてくださる人たちが

の協力があったかったです。また、パートの支援員は働ける時間に制限があり体制を組むのが大変でしたが、パートさんの協力を得ながらうまく回すことができました。皆に支えられて学童クラブが成り立っていることを改めて感じました。

**大河原** 6月から分散登校として学校が再開、中旬から通常登校となり、子どもたちは無事に学校へ戻りました。学童クラブは一つの山を越え、振り返ると貴重な経験をたくさんしました。新型コロナウイルスの第3波が指摘されていますが、対策をしてこれまでやってきたことをやっていく、そういった覚悟と自信は付いたと思います。

に持ち帰る子どももいました。工作といえば、たくさんの方の支援を受けました。子どもの遊びを提供する太田市のごんまこども園や、手作りおもちゃなどで地域と交流しているぼくこくぼさんなどから、工作キットが送られてきました。玩具店の人も遊びを教えに来てくださり、子どもも喜んでいました。

**大河原** 学童関係者だけでなく地域の人も気に掛けてくれ、振り返るとコロナ禍を通して人の温かさを感ずる場面がたくさんありました。

**伊藤** これまでのように楽しんでいた外遊びや歌などができなくなっても、違った遊びで楽しむことができました。ピアノの先生でもある淳子先生（沼田東学童クラブ支援員）の音楽教室も盛り上がりました。曲の出だしを聞いて曲名を当てるイントロクイズは、聞くことで音楽を楽しめました。回答ボタンを間隔を空けて置き小さい声で答える、人数が多いときは廊下を使って分散させるなど対策もできていました。

**大河原** 受け入れ人数が多いときは、もう少し室内が広ければ一人一人の間隔を空けられるのになど思っていたのですが、外の空きスペースを活用できそうとひらめき、人工芝を敷いてもらいました。おかげで室内と外で分散しながら3密状態を防いでいます。人工芝には10人

15人くらいいても余裕があり、運動したり読書をしたりして、子どもたちも喜んでいきます。

**子どもにストレスや不安は見られましたが、ケアや対処法などは**

**伊藤** コロナ禍の不安やストレス、生活スタイルの大きな変化で、けんかが多い日もありましたが、比較的穏やかに過ごせている様子でした。

**大河原** 新1年生は入学時期の1週間ぐらいしか学校に行っていないので、朝から学童で過ごすことに違和感はありませんでした。上級生たちからもかわいがってもらって楽しそうなお様子でした。

**伊藤** 学校再開の見通しは立っていませんが、いつ再開しても学校生活にスムーズに移行できるように時間割を組みました。1時間目、2時間目、お昼休みといったように基本的には学校の時間割に合わせ、45分授業と同じように1日を進めています。算数の時間には算数に関する宿題、音楽の時間には淳子先生から指導など、子どもたちも第2の学校のような感覚で取り組んでいました。

**大河原** 感染させないことを第一に「子どもたちは元気かな」「飽きていないかな」と、常に考えていることをしていった積み重ねが、結果的に子どもたちがゆとりを持つことにつながったのではと思っています。感